

農作物技術情報 第8号 野菜

発行日 令和8年10月29日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当（電話 0197-68-4435）

携帯電話用
二次元コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコン、携帯電話から「<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>」

- ◆ 共 通 栽培後地では、来年の安定生産に向けた作業（残さの処分、資材消毒、土づくり）を行いましょう。
- ◆ 施設 野菜 冬期は省エネ対策技術を積極的に実施しましょう。
- ◆ 寒じめほうれんそう ハウスの適切な開閉により株の充実を図り、適期に出荷しましょう。
- ◆ 促成アスパラガス 低温遭遇時間を考慮して適期に掘り取り、収量を確保しましょう。

1 生育概況

- (1) 果菜類の収穫は、露地作型では気温低下により栽培終了または栽培終盤となっています。施設作型では気温低下により生育が緩慢となっています。
- (2) 雨よけほうれんそうの生育は概ね良好です。病害虫は、シロオビノメイガ、ハウレンソウケナガコナダニの被害が見られますが平年より少ないです。寒じめほうれんそうの播種は概ね終了しました。
- (3) ねぎは概ね順調に生育しており、収穫も順次進んでいます。病害虫は、葉枯病（黄色斑紋病斑）や黒斑病の被害が見られます。

2 技術対策

(1) 共通

ア 栽培後の整理と来年に向けた病害虫対策

栽培終了後の作物残さや越年して使用する資材は、翌年の病害虫の発生源になります。栽培終了後の作物残さは年内にほ場外に埋却処分し、越年して使用する資材は資材消毒を行います。

かん水装置等、冬期間使用しない機器は、凍結による破損等を防ぐため、水抜き等の凍結防止を行います。

- (ア) きゅうりでは、褐斑病が毎年多発するほ場は、支柱やかん水チューブなどの資材に付着した分生子が翌年の発生源になります。残さの後片づけと資材消毒を行い、翌年の発生源を排除します。
- (イ) ピーマンでは、根の残さで土壌伝染性ウイルスのPMMoVが越年します。土壌中のウイルス密度を高め、抵抗性打破の危険性が高まるのでほ場への残さのすき込みは絶対に避けてください。
- (ウ) なすでは、半身萎凋病の病葉に形成された菌核が次年度の発生源となりますので、発生ほ場では葉を確実にほ場から持ち出し処分してください。
- (エ) 冬期間作付がないハウスは、害虫の越冬を防ぐため、ビニール除去や妻面等を開放して長期間寒気にさらします。冬期間に葉菜類等を作付する場合はハウス内の除草に努めてください。

イ 来年に向けた土づくりと施肥管理

野菜栽培では、長年、同じ作物を作付けする事例が多いため、基盤となる土づくりが重要です（図1）。

- (ア) 有機物の施用による生物多様性の確保
- (イ) 耕盤破碎、深耕等による物理性の改善
- (ウ) 土壌診断等による化学性の維持改善

なお、県内の野菜畑では、可給態リン酸や交換性カリウムなどが土壌改良目標値を満たしたほ場が多く、無施用でも良い水準まで蓄積している事例もあります。また、カリウム過剰はカルシウムの吸収を阻害し、尻腐果発生の一因にもなります。

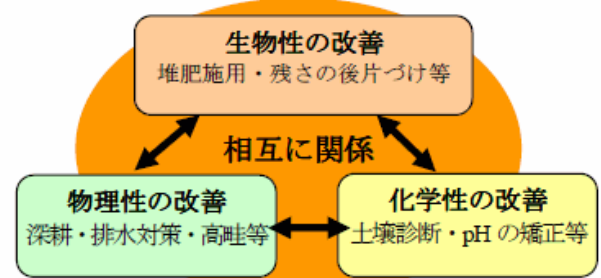


図1 土づくりで重要な三つの性質

- (ア) **土壌診断を実施**し、適正施肥に努めてください。

- (イ) 土壌改良目標値を満たしているほ場では、「土壌から持ち出された肥料成分を施肥で補給する」補給型施肥基準を適用し、土壌養分の蓄積を防ぎます。

- (ウ) 土壌養分が過剰な場合には、減肥基準に基づいた適正な施肥管理に努めてください（図2）。

なお、各品目の補給型施肥基準や減肥基準の詳細については、各地域の農業改良普及センターにお問い合わせください。

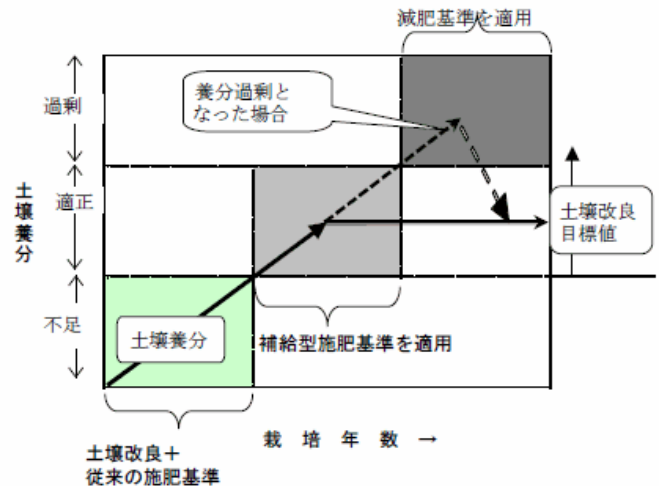


図2 土壌養分に応じた施肥管理基準の適用

(2) 施設野菜

燃油費や資材費などを含めた冬期における施設野菜の生産コストの増加は、農家経営に大きく影響します。最小限の燃油で高い加温効果が得られるよう、省エネルギー対策を積極的に実施します。具体的には、

- ア 暖房装置の点検・整備、清掃による暖房効率の低下防止
 - イ 温室の被覆資材の隙間の補修などによる放熱防止
 - ウ 内張資材などの導入による保温性の向上や温室内の温度ムラの解消
 - エ 作物・品種の特性をふまえた生育ステージ毎の適正な温度管理の実施
- などが挙げられます。

(3) 寒じめほうれんそう

ほうれんそうの伸長は5℃以下でほぼ停止するため、それまでに長さを確保する必要があります。また葉長を確保した後は、確実に5℃以下の低温にさらすことが糖度上昇にとって重要になります。

- ア ハウスの開閉による適切な温度管理を行い、出荷できる葉長まで生育させます。
- イ ほぼ収穫できる葉長になった時点で、ハウスの入口やサイドビニールを開け、1週間程度5℃以下の低温に連続して遭遇させる「寒じめ」を行い、糖度の上昇を図ります。
- ウ 本県では、葉柄のBrix値8%以上を出荷基準としており、この糖度が得られる12月以降に出荷します。

(4) 促成アスパラガス

貯蔵根の糖度が収量に影響するため、低温遭遇時間を目安に根株の掘り取りを行い、伏せ込み後は水分や温度の管理を適正に行います。

- ア 地上部の刈取りは茎葉が十分に黄化してから行います。
- イ 十分に低温遭遇した株を利用することで、収量が増加する（図3）ので、5℃以下の積算遭遇

時間 90 時間以上を目安として、掘り取り時期を決定します（表 1， 2）。

ウ 伏せ込み準備は、ハウス内に温床を設置（図 4）し、保温対策を万全にします。

エ 伏せ込み後 1 週間～10 日程度は無加温とし、徐々に地温を 16～18℃まで上げるようにします。

オ 萌芽開始後は、地温 15～16℃、トンネル内気温日中 25℃以下、夜間 10℃以上を目標にします。

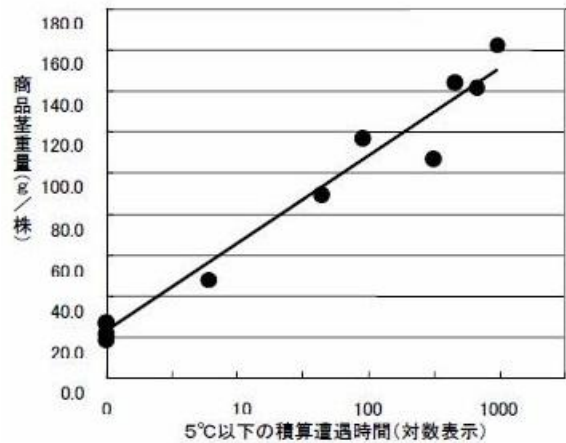


図3 掘り取り前根株の低温遭遇時間と商品茎重量との関係
（商品茎：5 g以上の若茎）

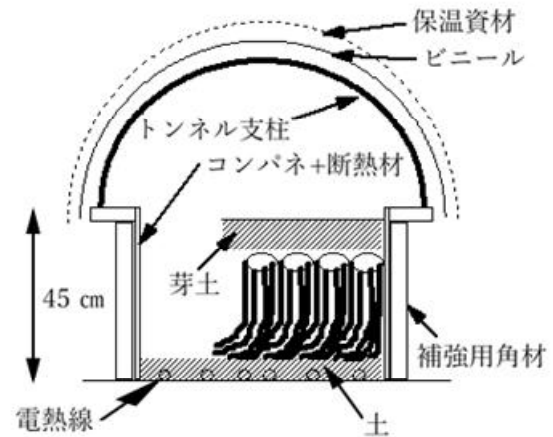


図4 促成アスパラガス温床の設置例

表 1 過去 5 年間の 5℃以下の積算遭遇時間が 90 時間に到達する日（2021～2025 年）

年	奥中山	二 戸	盛 岡	北 上
2021	10 月 25 日	10 月 30 日	11 月 17 日	11 月 24 日
2022	10 月 24 日	10 月 28 日	11 月 7 日	11 月 15 日
2023	10 月 26 日	11 月 12 日	11 月 16 日	11 月 23 日
2024	10 月 30 日	11 月 7 日	11 月 18 日	11 月 20 日
2025	10 月 28 日	10 月 30 日	11 月 8 日	11 月 16 日
平均	10 月 26 日	11 月 2 日	11 月 13 日	11 月 19 日

表 2 令和 8 年度の 5℃以下の積算遭遇時間（2026 年 10 月 25 日まで）

二 戸	奥中山	盛 岡	北 上
54 時間	83 時間	28 時間	6 時間

ツキノワグマの出没に関する警報

県は、ツキノワグマの出没に関する一層の注意を促し、更なる被害の防止を図るため、県内全域に「ツキノワグマの出没に関する警報」を発表します。県民の皆さんにはツキノワグマの被害を防止するため、一層の注意をお願いします。

<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/shizen/yasei/1049881/1043255.html>

- 1 クマに遭遇しないために
 - ・ 事前に入山地域の出没情報や被害情報を確認する
 - ・ 音の鳴るグッズを常に鳴らして存在をアピール
- 2 クマを寄せ付けない
 - ・ 食べ残し等、エサになるものを放置しない
 - ・ 農地周辺のやぶを刈り払い、見通しの良い環境を整備する
- 3 出会ったときの行動
 - ・ 背を向けて走って逃げない
 - ・ 目を離さず静かにゆっくり後ずさる
- 4 襲われそうになったら...
 - ・ クマが攻撃してきたら両腕で顔や頭をカバーし地面に伏せて防御する

次号は11月26日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。
発行時点での最新情報に基づいて作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

**9月15日～11月15日は
秋の農作業安全月間です**

**「これくらい…」 少しの油断が事故のもと
初心忘れず安全作業**

農業普及技術課農業革新支援担当は、農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。